

授業の具体的展開例

お話作りをする

T：では、みんな書き終わったようなので鉛筆を置きましょう。
発表してもらいます。

C：4人で砂場で遊んでいます。

C：4人でやまを作っています。

T：2枚目の絵を見てみましょう。

C：2人帰りました。

C：2人家に帰りました。

C：4人の中で2人帰りました。

T：3枚目を見てみましょう。

C：今度は5人来ました。最後には何人になるでしょう。

C：5人遊びに来ました。

C：5人遊びに来ました。全部で何人になるでしょう。

T：減る言葉、増える言葉を探しましょう。

C：減る言葉は“帰りました”です。

C：増える言葉は“来ました”です。

T：へる ふえる カードを貼りましょう。

C：へる を貼る。

C：ふえる を貼る。

T：今日は、「へる、ふえる」ですね。
昨日までは、「へる、へる」「ふえる、ふえる」と、くりかえしだったので“また来ました”“また帰りました”と、“また”という言葉が使えたけど、今日は「へる、ふえる」だから、“また”は使えませんね。
Nさんが“今度は”という言葉を使っていましたね。
とてもいいですね。
では、式を書いてみましょう。
計算のルールをきちんと守りましょう。

「活用」の力を育てる評価の工夫

既習事項をもとに示された絵から演算決定をする力の育成を目標とする。

そのために、より場面が把握しやすいような挿絵を用意すると共に、児童にとって理解しやすいより身近な場面設定にすることにした。

また、児童が文章化するときには、わかっている数と、どう変化したかを必ず書くということを目指し、特に最初の数に注目させ、それがどう変化したかを考えさせていく。

「活用」の力を育てる評価の視点

本単元では、児童はこれまで(+)、(+)や(-)、(-)という、同じ四則が含まれる計算をしてきた。本時においては、(-)、(+)という違う四則の計算に初めて出会う。

演算決定を確実にできるようにするために、挿絵についてのお話を自分の言葉で作成り、増減を決定する言葉に注目させたい。

活用の力を評価する具体的な観点としては、

- ① 挿絵を見て、自分の言葉でお話作りをし、立式して答えを求めることができる。
 - ② お話作りはできるが、立式ができない。
 - ③ 説明を聞き、理解できる。
 - ④ 説明を聞いても理解できない。
が、考えられる。
- ④の状態の児童には、十分な個別指導が必要である。

板書例

3つのかずの けいさん

めあて さいごには なん人になるか 1つのしきにして かんがえよう。

挿絵



4人います

4人であそんでいます
4人ですなばであそんでいます

挿絵



2人かえりました

2人いえにかえりました
2人はいえにかえりました

挿絵



5人きました

5人あそびにきました
こんどは5人きました

しき $4 - 2 + 5 = 7$

こたえ 7人

本時の流れへ

評価問題

単元の流れへ

HOME